

平成30年度第2回米子市地方創生有識者会議

○日時

平成31年2月7日（木）午前10時から12時

○場所

米子市役所401会議室

○議題

- (1) 米子がいな創生総合戦略の改訂について
- (2) 平成30年度に新たに追加した施策の取組状況について

○出席者

古賀敦朗座長、但馬清美副座長、入江到委員、植田睦美委員、岡村哲晶委員、佐貫馨委員、澤田裕一委員、中西広則委員、森田慎一委員、山下進弘委員、瀧本修オブザーバー、徳田真吾オブザーバー

○欠席者

齊木恭子委員、辻能実委員、吉川浩委員、

○出席職員

副市長 伊澤勇人

総合政策部長 大江淳史

総合政策部次長兼総合政策課長 八幡泰治

総合政策課まちづくり戦略室長 倉本樹

総合政策課主任 宮本朋子

都市創造課長 若林満弘

男女共同参画推進課長 的早ゆかり

淀江振興課長 橋井雅巳

福祉保健部長 斉下美智子

福祉保健部こども未来局長 景山泰子

健康対策課長 清水宏紀

こども相談課長 橋尾宏紀

子育て支援課長 湯澤智子

経済部経済戦略課長 雑賀英明

文化観光局長兼文化振興課長 岡雄一

農林水産振興局長兼農林課長 高橋浩二

次長兼商工課長 杉村聡

観光課長 中久喜知也

教育委員会事務局長兼教育総務課長 松下強

総務部財政課長 下関浩次

○傍聴者：なし

○報道関係：なし

※読みやすさ等のため、発言の趣旨を損なわない範囲で、重複表現、言い回しなどを整理
しています。

○八幡総合政策課長

ただ今から、平成30年度第2回の米子市地方創生有識者会議を開催いたします。総合政策課の八幡でございます。議事に入りますまで、本日の日程に従いまして、会議の進行を務めさせていただきますのでよろしくお願いいたします。

なお、本日は、齊木委員さん、辻委員さん、吉川委員さんが欠席とのご連絡をいただいておりますので、報告いたします。

まずは、副市長がごあいさつを申し上げます。

○伊澤副市長

皆さんおはようございます。本日は平成30年度第2回の米子市地方創生有識者会議にお集まりいただきました。お忙しいところお集まりいただきました委員の皆様へ感謝申し上げます。今年度第2回ということでありまして、例年ですとこの時期には今年度の改訂についてご議論いただくということではありますが、実は皆様方にご意見を賜りながら進めてまいりました米子がいな創生総合戦略が、平成31年度までということになってございます。したがって、平成32年度以降どうするのかということも、本格的には来年度に議論していただくこととなりますけれども、今年度下期の改訂につきまして、そういった観点から、例年どおりのきめ細かなこまごまとした改訂というよりは、次期戦略を念頭に入れながら、今回の改訂については最小限にさせていただいて、むしろ、本格的には先ほど申し上げましたとおり来年度にやりますので、来年度の有識者会議等においてご議論いただきながら、策定作業を進めてまいりたいと思っておりますが、市の持つております総合計画と一体的なものにしたいと考えておりまして、そういった大きな見直しについて本日からご議論を始めていただきたいと思います。そういった観点で、重ねてになりますが、今年度の改訂については最小限とさせていただきまして、これが策定に向けた議論の出発点としていただきたいと思います。ご理解ご審議いただきますように、よろしくご申しあげまして、私からのあいさつとさせていただきます。

○八幡総合政策課長

続きまして、古賀座長さんにごあいさつを賜りたいと存じます。古賀座長さん、よろしく申し上げます。

○古賀座長

おはようございます。去年の7月に集まってから半年経ちました。本日は、これまでやってこられました地方創生、総合戦略の状況につきまして、お話を聞かせていただくのと合わせまして、新規の案件があるそうですので、それについてのご議論と、先ほど副市長さんからお話がありましたとおり、次期総合戦略に向けて、こちらはフリートークでしたいということです。いつものとおり、この会は、結論を出す会議ではありませんので、皆様のご意見を市の関係者の方に聞いていただきまして、総合戦略を策定していただくとい

うことで、皆さま自由な闊達なご議論をいただければと思います。

今日はどうぞよろしく願いいたします。

○八幡総合政策課長

ありがとうございました。

それでは、これより本日の議事に入りまして、進行を古賀座長さんをお願いしたいと思います。よろしく願いします。

○古賀座長

それでは、日程に従いまして進めてまいりたいと思います。

今日は、事前に郵送された資料に従いまして、進めてまいります。議事にありますとおり、これまで進めてまいりました「米子がいな創生総合戦略」につきまして、「議事（１）米子がいな創生総合戦略の改訂について」と「（２）平成３０年度に新たに追加した施策の取組状況について」を合わせてご議論いただきたいと思います。それでは、事務局から説明をお願いします。

事務局 資料１・２説明

○古賀座長

ありがとうございました。施策の追加及び施策の取組状況についての報告でしたが、皆様、ご質問またはご意見などございますでしょうか。

○佐貫委員

資料１の２新旧対照表のNo.1「Uターン就労の促進」の中身なんですが、この文章を読ませていただきましたけど、学生の方がこちらにUターンしてくるときは、何かメリットが必要かなと思います。

今、統計的に言うと、大学に進学された方の約半数が奨学金を借りているということが全国のデータの中で出ています。大学進学者に対する奨学金の助成制度が県にはありますけれども、米子市にあるのか分かりませんが、やはりUターンされた方に対しては、奨学金の助成制度、何らかの形で市の方が免除というか、何割かを削減するとか、そういった部分も一考察としてはどうかな、ということをご提案申し上げます。以上です。

○雑賀経済戦略課長

米子市に戻って来られた学生さんに定住していただくことを目的に、奨学金の利子に関して助成をするという制度を持っておりまして、県が奨学金の元金に助成をされるという形の制度を持っておられまして、どちらかというところの制度を利用される方が多く、本市の制度は利用者が伸びず、平成３０年度は新規受付を行っていないという状況です。

○八幡総合政策課長

補足で説明させていただきたいと思います。実は、地方創生が始まりました時に、全国一斉に、Uターン促進のために奨学金に対する助成制度などが設けられたところだと思います。鳥取県においても、これらの制度を設けられて施策の推進を図ってこられた。その結果が、今の7割の希望者のなかで3割のUターン実績ということになっております。この、Uターンの促進につきましては、それこそ今日ご出席のハローワークさんはじめ、鳥取県さん、私どももあらゆる施策を総動員して対応を図らせていただいているところではあります。やはりなかなか厳しい現状にあるという認識をしております。それでこの度、ここで掲げておりますKPIといいますが、Uターンの新卒者だけにターゲットを絞るのではなくて、意外に都会で働いて3年とか4年ぐらい経って、それで家庭を持った段階で生活するようになった時に、都会がいいのか田舎がいいのか、その辺りの方々について、きめの細かい戦略を設けていきたいと思っております。また、ある意味労働力の確保という視点で見れば、若年者はもちろん大切なんですけれども、それこそ健康寿命が年々伸びておりますから、都会で、55歳あたりで一回、ちょっとリタイアを考えられた方々でも、こちらに帰ってきていただければ、まだまだ20年30年活躍していただく機会があるわけですから、そういう方々にも広げて幅広く、施策を対応していく必要があるのかなと思っております。当然、ご指摘いただきました奨学金の件につきましても、これは鳥取県さんと相談しながら、どうするのかを検討させていただければと思っております。以上です。

○濱本オブザーバー

先ほど紹介がありましたけれども、県の方に奨学金の返還を支援する制度がございます。対象業種を広げて参っておりますので、鳥取県の方も市役所さんといろいろ相談させていただいてやってきたいと思います。

○植田委員

先ほど市の方から、Uターンの方の移住施策についてということでご紹介をいただいたところでございますけれども、今年度の大学等の就職希望者が、非常に厳しいものとなっております、10月現在の状況で、県内の就職希望者の数値そのものが昨年度より落ちているというような状況が出ております。これだけ人手不足が全国的になっておりますと、やはり大手の企業さんからの求人が地方に向けてどんどん発信されてきているような状況がございますので、そういった面で中小企業の多い鳥取県というのはなかなか厳しい状況に置かれてしまうところがあるかと思っております。今その対策として、どうやって地元の企業さんの魅力を発信していただくか。当然、情報発信するためには企業内部の改善を図っていただくというようなこともありまして、ここが働き方改革ということで報道されている部分ではあるんですけども、そういったところをどう発信していくかという部分について、皆さんのお力添えがいただければと思います。企業の方に対して、どういう風に発信するか、人が集められるのか、どういう風に発信すれば魅力として感じていただけるのかという部分を、企業の方にもしっかりと身につけていただくと。当然、鳥取県の中にも随分その辺り進んでいらっしゃる企業さんもありますので、その辺りのノウハウを広げていきながらということを実施としては考えていく必要があるかと思っております。

ハローワークの方でも、その部分について今、力を入れているところです。

○古賀座長

企業の魅力の発信、まずは企業の魅力がないとなかなか進まないということで、この辺が結構難しい部分も多々あるのかなと思いますし、この米子市に住んでいる若者たちは、やはり都会に行ってみたい、都会あるいは大企業に対する憧れみたいなものもあって、それは止めることができないということがありますけれども、企業の魅力発信につきまして何か米子市さんの方でお考えありますでしょうか。

○杉村商工課長

地元の中小企業の皆さんの要望ということで取り組んでおりますこととして、一つはものづくり企業ですけれども、中海・宍道湖・大山圏域で企業のデータベースを作ってインターネット等で閲覧ができるというようなサイトを持っておりますが、やはり、平成30年度に総合戦略に追加した施策である「中小企業振興条例あるいは振興ビジョンの策定」の中で、どうやって地元企業さんを外に向けてアピールしていくか、そういった点も含めまして、現在商工団体の皆さんや中小企業団体の皆さんと意見交換をしているということでございます。ご指摘の点も含めまして、そういった中でどういった対応ができるのか検討して参りたいと思いますし、ハローワークさんや県立ハローワークさんとも、そういった点で意見交換をして参りたいと思っております。

○古賀座長

そうですね。そういう形で企業の情報をまとめて発信するのは非常に効果があるのかなと思いますが、実際に必要としている人にいかに届けるかということが非常に大事だと思います。私も鳥取大学も、関西など外から来ている学生さんも多ございまして、半数以上が県外出身者ということで、大学を卒業すると県外へ、地元へ戻ってしまうということがあります。そういう意味では、こういう鳥取県から外に出てしまった学生に、どのようにして情報を届けるかということになりますと、米子市の中でいくら発信しても意味がないと言いますか、しょうがない部分がありまして、場合によっては、東京や大阪で、そういった情報発信やイベントを開催する等の活動も合わせて必要ではないかと感じるんですが、この点はいかがでしょうか。

○八幡総合政策課長

今まさに、座長さんが言われた視点というのが非常に重要だと思っております。これにつきましては、鳥取県さんの方もすでに対策チームなりを作っているんですけども、昨今、関係人口という言葉がはじまっておりまして、これはどういうことかということ、例えば米子市でいうと、米子に縁のある方で都会に住んでいらっしゃる方に、米子市に目を向けていただきたい。そういう方々を増やすことによって最終的には移住定住につなげていく、という取組が国レベルで出始めています。具体的に言いますと、例えば鳥取県県人会や各学校の同窓会、それから、ふるさと納税でたくさんの方にご協力いただいておりますので、それらの方々に様々な場面で情報発信をしていくことが必要だということで、本市におきましても、今年度から組織を変えましてシティプロモーション推進室というのを作りまして、新たな情報発信に努めているところでござ

います。この取組につきましても、先ほどの件と同様に、米子市だけということではなくて、当然鳥取県さん、ハローワークさんはじめ関係機関の皆さんと一緒にやって取り組んでいくことにしております。

○濱本オズバー

県の方でも、就職希望の若者に市役所と県の取組を説明するなど、普段から連絡を取り合っております。それから、今、詳しいことは分からないですけれども、鳥取県から関西方面の大学に進学する学生がかなり多かったということから、県と関西の大学との間で就職支援協定を結んでおりまして、情報を出せるような行事もしております。こういう行事の情報などについては市役所さんの方に情報を提供させていただいておりますので、一緒に進めていきたいと思っております。

○古賀座長

先ほどおっしゃっていただいたように、県人会というのが非常にいろんな特色を持っておりまして、私自身が都会の出身ですが、都会の方ではそういったコミュニティ、例えば神奈川県人会って、あるかもしれないですけれども聞いたことがないです。鳥取県人会というのは非常に素晴らしいと思っております、今度、3月にこちらにお越しになるということを知っておりまして、私どもの大学を紹介するんですが、そういった県人会を通じて、都心に勤められる方々に、こういう企業や就職口がある、こういう街だということ伝えていただくというのは非常に効果があるのかなという風に感じております。いろんな形で情報発信をしていただきたいと思っておりますし、この活動はUターンだけにとどまらず、シティプロモーションとか観光事業とも非常に密接に関わっていると思います。この街の魅力を伝えるということによって、多くの方が米子市に住んでみたい、行ってみたいという風になってくれると思っております。

私自身も米子市を知らなかったんですけれども、来てみて非常に米子市に魅力を感じて、できたらここに長い間住みたいと思っている一人なんですけれども、実際、都心の方では、米子市を知らない人がほとんどです。ですので、その方々に対して発信できるようにしていただくと、より良いように感じますので是非お願いしたいと思います。また昨今、よくテレビとかで出ていますが、「統計」が大事だと思うんですけれども、このUターンしたい人がしたいけれどもできない事情についても何らかの調査というものがあるのかなと思います。

○八幡総合政策課長

たしか、鳥取県さんの方では分析をされていたかと思っております。具体的な中身までは、はっきり記憶にありませんけれども、基本的に私どものアンケートで、Uターンの方の傾向を見るとやはり就職だと思うんです。先ほど、植田委員さんが言われたとおり、特に今アベノミクスで景気が非常によるしいものですから、都会の大手に人が入ってしまう、そこが一番の原因かと思っております。先ほどの繰り返しになりますけれども、やはり大手の大企業と鳥取県内の企業というのはどうしてもそういう条件においてなかなか差があるということは事実なんですけれども、やはり鳥取県で、私どもとしましては座長さんが言われたように、トータルとしての生活ですよね。「本当に住みよいまちなんだ」ということを全面的に出して頂いて、それは世界で活躍したいとかそういう方は、逆に応援すべきだと思いますし、そういう方々も先ほどの「関係人口」として米子のことを見て

いただきたいというのがあるんですけども、トータルとしてのまちの魅力というのを作っていくとか、そういうところがこれからは重要になるのかなと考えております。

○大江総合政策部長

今日はシティプロモーションの関係部署が来ていないのでそこに代わってお答えさせていただきたいと思うんですけど、やはりこのUターン、それから関係人口を増やす、実質的な人口増やしていく、ということは特効薬があるものではありません。ある程度いろんな分野で中長期的に戦略を立てていかないといけないと思っております。シティプロモーションに現在力を入れているところですけども、それもやはり一方策でありまして、これまでふるさと納税に早い時期から力を入れてきておりまして、まだ、あと2ヶ月弱ありますけれども、今年度、実は約12億円くらいいきそうな勢いでもあります。これは力を入れたというのもありますけれども、当初からうちのふるさと納税のコンセプトは、「なかなか米子市民がストレートに増えることは考えられない。それなら市外に市民を作ってしまう」ということで、それはある意味、行政サービスは受けなくてもお金だけを入れてくれるところというのが、ある意味一番良いところで、それは関係人口にも繋がります。ふるさと納税が12億円入ってきた時に1万4、5千円が平均額ですから、寄付者は市外の方で8万から9万人いらっしゃいます。その方が米子に縁を持っていたところっていうのを、もちろん今までもしてきておりますが、今後活用の対象にして、そこにどんどん力を入れていくことを考えております。また、将来的に帰ってきてこちらに住んでいただくという場合になると、全く無縁の方よりは、やはり米子に今まで縁があった出身者であるとか、米子の高校を出ているとか、勤めで米子に住んだとか、そこをターゲットにするのが移住定住にとっては一番重要ではないかということで、Uターン対策をいろいろ入れたいですけども、座長さんも言われたように、若者が一旦は都会に出てみたいという大企業への憧れ、大都市への憧れというのはなかなか止められません。じゃあそれが、将来的に年を取ってから帰ってくるような形で、ちょうど今シティプロモーションの一環でもあるんですけども、米子は郷土愛を小さい時から植え付けよう、「米子ってこんなにいいところだよ」ということで、ちょうど今月の市報ですけども、加茂小がふるさと教育みたいなことをしております。そういった幼い時から米子はとってもいいところだから、米子のことをしっかり意識して、外に出ても威張れるような格好で、ということをどんどん進めていこうと。それは、最終的に出て行くことは止められなくても、将来的に帰ってきてくれる、米子を見つめてくれる、そしてふるさと納税でもしてくれるっていうところを増やしていくというのが、総合的な政策の中では、長期のことになりますけれども、重要なことになってくるのかなと思っております。そういうあらゆる施策を含めながら、シティプロモーションに力を入れていって、ちょっと愚痴にはなりますけれども、やはり鳥取県さんなんかは平井知事自身がいろんな場面で、自らが広告塔になってシティプロモーションをやっておられます。広告費をかけなくても、知事自体がPRできるという形をつくっておられる。鳥取市さんも「すごい鳥取市」ということで、ちょっと言い方が悪いですけども、結構お金をかけてやっておられる。米子市の場合はなかなかそうやって大きな広告社にお願いしてというところはなくて、やはり地元の知恵でなんとかやろうという方向性を持ってやっております。シティプロモーション推進室を作ったのもそういう前提で、今の伊木市長のお考えのもとでやっておりますので、これを着実に進めていくことによって、総合戦略に載せているUターン、

あるいはシティプロモーションに力を入れて、米子市が発展していくということに総合的に繋げていくというところがあるのを、付け加えて報告させていただきたいと思います。

○古賀座長

そういう意味では私も広告塔の一人として、先週1月31日に大阪で関西経済連合会のセミナーがあって講演をしたんですけども、そこで半分の時間を使って、この地域の良さについて伝えてきたところです。東大阪の企業さんが中心となって集まった会なんですけれども、非常に興味深く聞いていただきまして、カニがおいしいとか、温泉があるだとか、そういうようなことで話をしてきたところです。そういうところで少なからず効果が出てくればいいなと思いますし、そういう意味では、お集まりの皆さんすべてで、この米子市の活性化に向けて、皆さん一人一人が広告塔になっていただいて、発信するということが重要なのではないかなという風に感じます。

○岡村委員

先ほどUターンを含めて、シティプロモーションもJIターンにつながっていくようなことだと思いますけれども、鳥取県人会を一つのパイプとして、プロモーションしていくって非常に良いことだと思います。ただ、先ほど座長からありましたけれども、神奈川県から米子を見てどうかっていうことなんですけれども、山陰で米子を知らない人はないと思うんですよ。なので、島根県人会があると思いますけれども、そういったところにも、もう少しアタックをしていく。チャンネルをミックスしていきながらプロモーションをかけていった方が確率は上がって行くんじゃないかなと。鳥取県という狭域なところに視点を狭くするのではなくて、もう少し視野を広げていけばと思います。私は実は松江の出身ですけど、小さい頃から米子は知っていて、米子に来ていましたし、今、実際米子で働いていますし、こういった人間もいますので、松江で十分米子商圏で取れることだと思います。島根県の方にも、もう少し目を向けられれば、住みやすい所であるのは間違いないと思っていますので、効果としては出てくるんじゃないかなということを考えておりますので、ご検討いただければと思います。

○古賀座長

近隣の地域に対してのアプローチですけども、もしかすると効果があるかなという気がします。

○中西委員

私は組織の職員が690人ほどいる西部地縁の協同組合にありますが、本当に、今、人材不足で苦しんでいます。ハローワークさんを通じて、あるいは、いろんな就職相談会などにお邪魔して組織をPRするんですけども、本当に県外に就職されてる方が多いのかなというのは実感として感じております。今日、報告がありましたとおり、7割は帰ってきたいという希望は持っておられて、実際には3割しか帰ってこられないという理由は、ただ給料か、大企業か、都会か、それだけではないんじゃないかと私は常に思っております。例えば、中学校高校と次に進学をされる方を中心に、教育現場の中でこの米子なり山陰の良さをもう少しみんなで、特に若い人に伝えるのが我々の仕事だと思うんです。ここで育って生活してきた我々世代の者が、若い方に対

して、もう少し親身になって、話を伝えていくというのが大事じゃないかなと思っております。テレビでも、島根のUターンのコマーシャルが流れておりますけれども、感じるのは田舎の良さ、それから両親と近いところにいる心の温かさというのが、人間誰しも、特に都会に出た者に対してはすごく伝わるという風に、自分自身の経験からも思っておりますので、そういった発信というのが大事ではないかなということで、皆さんもお分かりのような意見ですけれども一言申し上げておきます。

○古賀座長

魅力というものはお金のものだけではないということで、どういう情報をしていくかというのはそれぞれ違うかもしれませんが、ぜひ米子の魅力を、もっともっとアピールしていただきたい、あるいはしていきたいという風に思っていますので、よろしく願いいたします。

○森田委員

有益な情報だと思うので、最新の学生さんの意識をお話したいと思います。私、今、米子高専でキャリア教育と男女共同参画の仕事をしておりまして、ちょうど1月に東大の社会学の女性の先生を呼んで講演会をやりました。この時に、こういうアンケートをとりました。対象が女子学生です。女子学生が50人おりまして、内容としては、「就職試験を受ける段階になりました。私は首都圏の会社を受けることに決めています。改めて親に相談したところ、家から通えるところに就職してほしいと突然言われました」と。私どもが地域の企業見学会をするとき、男子学生に比べてものすごく女子学生の参加率が高いものですから、女子学生を対象としたアンケートだったので、地元就職の意識が高いのかなという認識だったんですが、実はその結果が、親の説得により地元企業を探すとか帰るとするのは10%くらいしかいないという実情です。内容を見ますと、「自分が働きたい仕事、業種、これを選択したい」というのが学生たちの意識の中で、我々も地元志向が強いと思った女子学生でさえもそういう意識のようでした、アンケートの中身が、極端な話、「親を説得する」さらに「その親を関東圏に移住させることも含めて考える」ということでした。どちらかというと仕事の内容ですね、冷静に自分がしたい仕事っていう就職への意識が高いようです。ですから学生側の意識がそういう風に、かなりしっかり持たれているというところを踏まえて、米子市をPRしていくかなということが実情です。今やっぱり私どももキャリア教育がかなり充実しているので、最近だとびっくりしたのが、僕がこの会社に入りたいんだけれども、新入社員寮には3年しか入れないので、その後関東圏だと家賃が高いのでどうしようか、というところまで考えている学生もいます。ですから、意識が高い子ほど米子市にいて欲しいんですが、やはり、会社の魅力ですね、仕事の内容、それから福利厚生、それから初任給だけじゃなくて、もう生涯賃金をも調べている学生も、特に優秀な学生に多いです。ですから、地元企業に就職するメリット、もちろん生活費トータルは給料だけじゃないんで、福利厚生あるいは昇進のスピードであるとか、任される仕事の内容、この辺をアピールしていく方が、米子高専生はもちろんですけども、大阪とか東京に進学している新卒の学生にはPRが効くんじゃないかなというのが、私どもが今思っているところです。参考にさせていただければと思います。

○古賀座長

非常に衝撃的なアンケートの結果でした。都会の方に進んでいきたいという学生の希望が垣間見えたわけなんですけれども、私なんかは、都会ってそんなに魅力がないっていうか。非常に混雑していて、満員電車で揺られながら1時間以上かけて通うとか、物価も高いですし、こっちの方がより良いといえますか。そういう意味では、今どき、ITなんかですと、特に場所を選ばず仕事ができますので、そういうような形に考えをシフトできないかなというのは感じるんですけども、実際、学生さんに対するインプットとして、そういった働き方もあるよ、ということも含めて、米子で働くロールモデルといえますか、こういった人がいるよというのを実例をもとに発信してもいいのかなという気はしました。

○入江委員

私どもの銀行には、年に数名、一人二人ですけれども、東京から就職される方がありません。全く縁もゆかりもない方だったりして、そういう方の理由を聞くと、新卒で東京での大学の生活をして、インターンを経験したりとか、都会の企業を受けたりしたんだけど、どうも自分には合わないような気がして、田舎での就職をして、地方創生にも役立てるような仕事ができたら、というようなことで就職して来られる方があります。でも、受け入れる企業側としてたちどころに苦勞するのは居住の問題でして、元々が地元の企業は、自宅から通勤してもらえるといる前提のもとでいろんなものが整えられているものから、拠点のない方に就職してもらおうと、企業として、その生活といえますか家賃に関する大きな重荷になってしまいますし、その分給料を上げるというわけでもありません。以前、実は鳥取市の方に提案したことがあるんですけども、今どきそんなふうな、Iターンで居住できる施設みたいな、安価な寮みたいなものが建ててもらえませんかということを行ったんですけども、基礎自治体として住民を増やすとか、暮らしやすい生活をしてもらえるように整えるという面では、そういったのも企業の採用をしやすくしたり、あるいは人口を増やしたり、優秀な人材を受け入れるにあたっては、そういった取組というのもあってもいいのかなというふうに思います。実際いま、うちに入って来られる方は、安い家賃の所に、自分の給料から自腹で払う生活をされています。鳥取なんて安いからまだ良いかもしれませんが、そういったところで諦められている方々も、もしかしたらいらっしゃるんじゃないかなという風に思うので、なかなか難しいことかもしれませんが、そういった取組もいいのかな、という風に思いましたので、お話しさせていただきました。

○八幡総合政策課長

住宅の件につきましては、全国的にどういう状況になっているのか、せっかくご意見をいただきましたので、調査研究したいと思います。

ただ一方で、本市におきましては今年、新たな組織を立ち上げたんですけども、空き家の問題が全国的に出ておりまして、その辺とうまいことマッチングできればいいのかなと、ちょっと思ったところです。いずれにしても、調査をさせていただくところからという風に思います。

○古賀座長

ぜひIターンに向けて、考えていただければと思います。

○山下委員

仕事柄なんですけれども常々思いますのは、皆さん、学校を出たら就職する、これが大前提なんです。今、米子高校さんとか松蔭高校さんの方で出前授業をやらせてもらっているんですけれども、高校生は、学校を出たらどこに就職するか、進学するかも含めてですけれども、どこに就職するのか、どこの会社に勤めるのかということをして100%考えなくてはならない。ここで私が言いたいのは、事業を起こす、米子で事業を起こすという道も、実は将来含めてあるんだということと、合わせて、先ほど郷土愛という話もありましたけれども、米子といいますか鳥取県西部というのは、私も来て2年になりますけれども、本当に良いものがたくさんあります。そういうところに是非着眼して、それを使って何とか米子ならではの、西部地域ならではの事業を起こしてもらいたいというふうに思っています。今、商工会議所さんや商工会さんの方でも、小学生・中学生・高校生のチャレンジセミナーということで、事業ということを考えてみよう、ビジネスプランというのを立ててみよう、というのをやっているんですけれども、ぜひ、教育というところにかかるかもしれませんけれども、事業、創業、事業をこの地で起こす、そしてこの米子市の経済の基盤となる、そのところの力を入れていくというところで、さっきのこの資料2の冒頭に、「中小企業の振興に関する条例の制定」ということで、先般、行政と商工会の意見交換ということもニュースで見ましたけれども、是非是非こういったところを絡めてですね、取組をお願いしたいというふうに思っております。

○古賀座長

やはり起業できる人材を育成しなければ、なかなか起業しようとしても簡単にはできないというのがありますので、教育とセットだと思いますが、創業支援に関しまして米子さんのほうでありますでしょうか。

○杉村商工課長

伊木市長の選挙公約の中で、創業起業しやすい、あるいは既存企業が新事業を展開しやすい環境というのを公約としておりまして、先ほどおっしゃいましたように、中小企業振興条例、あるいは振興ビジョンの策定を検討する中で、そういった創業起業をどうやって促進していくのか、こういったことも議題として取り扱っているところでございます。いずれにしても、この条例につきましては、どうしても二面的なものにならざるを得ないところもございしますが、その条例をもとにしてどういった施策を展開していくか、そういった基本的な方針であるとか方向性という中に、どうやって起業を進めていくか、また、小中学校、高校の段階からそういう意識を持ってもらう。これは今、山下支店長さんの方にもお世話になっているところでございますが、行政と経済界、あるいは金融機関の皆さん方といろいろと連携していきながら、そういった取組もできないか、こういったことも考えて参りたいと思います。

○澤田委員

日頃から、経済部、淀江支所を中心としまして関係の皆様にお世話になっております。この話題が出ましたので発言させていただきますけれども、先ほど公庫の支店長さんの創業に関するご意見もありましたし、冒頭から流出の抑制とか、Uターンの促進というものもありまして、受け皿としての地域の活力というか、元気の部分としての企業、地元の企業さん自体が元気であるということが、地方創生や地域域活性化の源でもあるし、切っても切り離せない部分だと思えます。商工会議所さんも商工会も支援に関しましては、強みを活かして事業の計画を策定していくということを基本に支援しているところですが、そうしたことで、先ほどから出ました企業の魅力というのを掲げていくという風にしながら、その塊が地域活性化に繋がるということを目指して支援しているところです。現在、人口減少だとか少子高齢化だとかが消費者自体の減少にも繋がっておりますし、事業主自身が高齢化して廃業に至るとか、それから先ほど出ました人手不足とか、いろんな企業がいろんな課題を抱えております。そんな中で生産性向上したり働き方改革だったりということに取り組んでおりますが、そういう意味で中小企業振興条例の制定ということを総合戦略に盛り込んでいただいておりますし、私も議論の場に入らせていただいております。具体的に効果を見据えた施策・支援が何なのかということと一緒に考えさせていただいておりますが、引き続き中小企業とか、とりわけ小規模事業者というところの支援を市の方には引き続きお世話になれたらなと思っております。それから、淀江の振興についても、商工会の事務局が淀江支所の中にありまして、特に米子日吉津商工会というのは淀江地区と伯仙地区、それから日吉津村が合併した商工会なんですけれども、淀江も市の一部としてはいろんな強みとございますか、特徴ある歴史だったり、水だったりという特徴のある地域でございます。そういったものを情報発信ということが先ほどから言われてますけれども、しっかり含めて、外に向けてPRしながらやっていけたらなと思っておりますので、引き続きここにある事項に関しましてよろしく申し上げます。

○古賀座長

経済の発展を望まれているということで、淀江の情報発信につきましても課題だということで、引き続きよろしくお願ひしたいと思ひます。

議論の途中ではありますが、事務局から資料3について説明をしていただいた後、資料1・2についても合わせてご議論いただく形でお願ひしたいと思ひます。事務局の方から説明をお願いします。

事務局 資料3説明

○古賀座長

そうしましたら、この米子がいな創生総合戦略の総括及び時次期戦略策定に向けての取組ということでご紹介いただきました件を含めまして、その他意見交換を継続させていただきたいと思ひます。

○但馬委員

先ほど、Uターン学生の奨学金免除の件がありましたけれども、たしか県が作っておられまして、業種の指定が最初ありました。当初はITとか建設業とか、看護師さんというような指定がありまして、でもIT企業っていうと、私たちが思っていたのは、その会社に就職してSEさんとかそういう業務に就かれる人が対象者になっているのかなと思ったから、そうじゃなくて、総務の仕事に就いていても対象になるという話も聞いたことがあります。であれば、業種の指定はもともとなくてもいいんじゃないかというような気がしております。その点、何か機会がありましたら、市役所さんの方から県の方に、私たちが言っているけれども、また言っていただけたらなという風に思っています。それから創業の件が出ておりました。私たち米子商工会議所も創業支援ということで、創業塾を年に何回も開催してきております。それぞれターゲットを変えながら開催してきております。ちょっと前の数字で、はっきりした数字は持っていないんですけども、受講された方で起業された方は11～12%だったと思います。フォローアップは引き続きやっておりますがなかなか創業に至っていないのは、金の件もあるかもしれませんが、昔に比べたら、それこそ手持ち資金がなくても今は借り入れて事業に取り組めるようになっていきますので、そこのところだけ、もう少し私どもは探してみないといけません。一つはしっかりした計画を立てないといけませんよ、ということは常々言っております。小さく始めて大きくしていきましょうということで、あまり無理な計画でやっていると、やはり大事業に躓いてしまう。次の再出発ってなかなか難しいところがあるので、その辺は引き続き商工課さんとも一緒になって、引き続き商工団体を支援していきたいと思っております。それから創業もですけども、一つは事業承継といいますか、全部含めて、希望される人があれば、従業員とか親族外の人にも事業を引き継いで、事業継続できるようなことを引き続いて取り組んでいきますので、また何かご相談等ありましたら、商工団体等を紹介していただけたらと思います。

がいな総合戦略をまちづくりビジョンの中に一体化していくということでありました。戦略策定に向けて総括が31年度にかけて行われるということでしたけれども、例えば、移住者について、県外からの移住者数の目標があって、累計の数が書いてあるんですけども、例えばこの累計された人が今時点で残っておられるのかということも含めて検証して行って、もしその人たちが他に帰っちゃったということがあれば、その原因とかを含めて考察していかないといけないのかなというふうに思います。それから地方創生の戦略というのは、人口を維持していくというのが確かに一番の目的だと思っておりますので、まちづくり、まちに魅力があれば人口は増えていくと思うんですけども、その辺の人口維持とまちづくりってどういう風に関連付けていかれるのかな、というところをちょっと教えていただけたらと思います。

○古賀座長

創業支援とか事業承継に関しては商工会議所と市が連携を持っておられるということで、その助言指導に関しては商工会議所さんがなさっているということです。これにつきまして

ては引き続き進めていただきたいと思います。

最後の方にありました、総合戦略における人口の維持あるいは拡大の話と、まちづくりとの関連付けにつきまして、市の考えをお聞かせいただけますでしょうか。

○八幡総合政策課長

地方創生の一番の目的というのが、実は東京の一極集中の是正と、その人口を地方に持ってくるというところで、そうしないと人口減少っていうのは、出生率のこともあって止まらないよということでスタートしたんですが、ご案内のように、東京の一極集中というのは、全くもって未だに是正されておりません。じゃあ実際に米子市の場合はどうかというところ、計画上は、緩やかに人口減少するという予測で、ある程度維持しなきゃならないというところで目標数値を立てておりまして、現時点ではその目標数値を上回っております。米子市だけで見れば上回っているということなんですけれども、先ほどの議論の中でもありました、米子市だけでいいのかという問題があります。平たく言えば、結構周りの町村とか、安来市・松江市からでも米子の方に若干多く入ってきていらっしゃるとか。そういうところで一つは人口減少、社会的増減のところの取組はどうだったか。地方創生は、とりあえず色々やってみようと4年前に始まったんですけれども、それがどうだったのか。あともう一つ、少子化の問題で、いろいろ子育ての施策を推進することによって、出生率の減少を防ぐとか、そういうことを全国的にやったわけです。ただ、出生率は、女性の人口が非常に大きく影響する関係で、なかなか全国的に止まらない。全世界で見て、例えばフランス政府でやったのが、結婚にこだわらずという政策をやったんです。一時期には出生率が上がったという事例があったんですが、今現在どうかというと、なかなか効果っていうのが検証できない状況にある。これは難しいんですけれども、そこにこだわるのが地方創生であったんですが、私どもといたしましては、それが本当にどうなのか、ということから、ある程度総括していく必要があるのではないかと考えております。

そこでまちづくりの関係なんですけれども、魅力あるまちにするというのが、住んでいらっしゃる方にももちろん、いろいろと米子に来ていただく、魅力あるまちづくりをすることがないと、いわゆる人口減少に歯止めはかからないのかなという視点で、今回、両方とも将来のまちづくりを目指す計画なものですから、一体的につくこととさせていただきますということでございます。

○佐貫委員

まちづくりの観点から一点なんですけれども、いよいよ米子駅の南北自由通路整備事業が始まるわけですが、一昨年の計画段階ではなかったんですが、いまJRの貨物会社が陰田の方から撤退しました。あその土地の有効活用を、市の方で何か考えておられるかということと、それと合わせて今の南北自由通路が、全国的にもああいう形式というのは非常に珍しいわけです。というのが、入れ替えせずに、あるなかで、自由通路が80～100mですか。ほとんどそういった所は、入れ替え構内をほかの地区に移して、駅のコンパクト化をしてから自由通路に取り掛かるとというのが一般的でして、今後、もし変更等可能ならば、今の米子駅の構内設備を陰田の方へ移設させて、駅の南側を有効活用を図る。本

当ならば、当初の計画段階でそういうことがあれば、もう少し、駅南の開発というのができるのかな、という考えがあります。

それともう一点、JRの後藤倉庫車両所がまちの中にあります。広大な土地になりますけれども、あそこになんでできたかという過去の歴史を理解したうえで言わせていただければ、なんとか後藤車両所の土地を有効活用させるために、総合車両所自体を陰田の方へ、貨物会社が撤退した後の方へ移設させると。歴史は分かっているつもりですけど、その土地をまちづくりの活性化のために有効活用できないかなと、今後、米子市さんとしても将来的にそういった課題に取り組んでいただきたいと思います。

○若林都市創造課長

私どもが担当しておりますのが中心市街地の活性化、それから都市計画というような分野でございます。まず、陰田と米子駅のあたりの件でございますが、現在、中心市街地活性化基本計画の認定という国の要件が、準工業地域に関しまして、大規模集客施設を立地できないようにするということが条件になっております。米子駅の南側に今回広場をつくりましても、その残地のJRさんの敷地とか、陰田の部分とか、それから後藤車両所、ホープタウンのあるあたりもすべて規制がかかっているというのが現状でございます。現在、中心市街地活性化基本計画をですね、平成32年度までの計画として持っておりますが、国の方に認定をいただいてから、正直、補助事業が採択されないということで、大きな事業が民間ベースではできてないということが、現状反省点でございました。南北自由通路ができるにあたって、我々としても南側の有効活用というのは、ご指摘のとおり大きな課題だと思っております。実はこれまで米子市は、平成10年から中心市街地活性化に取り組んできたんですけれども、米子駅から概ね後藤駅のあたり、ホープタウンのあたり、義方小学校くらいまでで300haが米子市としての中心市街地という概念で動いておりました。ただ、前回の認定のときに、100haくらいまでにしなさいという強い指導がありまして、妥協点として196haということで、後藤駅周辺、錦町あたりが現在の計画ではなくなっております。現状どう考えているかということでございますが、南北自由通路ができるということを契機として、現在は、米子駅から高島屋・公会堂あたりが「2核1モール」ということで、現在計画が進んでいるところですが、やはり南側の開発を考えていくようなことを、今後は検討していきたいということは課題認識として持っております。

それから、JRさんとの関係ですが、JRさんの施設をどう有効活用するかというのは、基本的にJRさんのご計画もございまして、それについてはなかなか、米子市の方でお願いするとは言えないところがあるかと思っております。まだ、これは高専さんと調整中でございますが、後藤駅を活用したまちづくりの共同研究を、今後進めていきたいということを考えておまして、米子市としては、山陰においてこれだけ狭い市域の中に駅がたくさんあるのは、境港市さんと米子市だけで、米子市内には12駅ございます。現在は米子駅に拠点を持たせて、整備していきたいと考えているわけですが、鳥取県さんのご協力もあって、バス路線に関しましては、伯耆大山駅を拠点として循環線を整備することができました。これはバス事業者さんのご協力もございました。その中で、これは米子市域外です

が、事実上の拠点として日吉津のイオンも乗換拠点になっています。その分、郊外の乗り換え拠点ということも考えていく中で、境線とか淀江駅とか、そういう駅も順次活用していきたいというようなまちづくりも考えております。その流れのなかで後藤駅の方もいろいろ考えていきたいんですが、ちょっと車両所についてはJRさんのこれからの、それこそ出雲市さんにある工場とかも含めたお話だと思います。ご意見として承りました。

○徳田オブザーバー

皆さんからご説明のあったとおり、地域資源をどう活かしていくのかということに尽きるんだろうと思います。総合計画と一体化して前倒しで、というのはスピーディーな施策が求められますからそれは結構だろうと思いますし、10年先が読めない時代になってますから、取組の柱となる計画の見直し等順次進めてリニューアルしていただければと思います。そのなかで、本質的な課題としては、技術革新をどう活用して、利用して、外国人観光客の力をどう地域づくりに活かしていくのかというあたりも、ポイントとしては欠かせない視点なのかなと思います。それから地元企業の活性化も含めて、IoT、AIを、庁内の仕事もそうなんだろうと思いますけれども、働き方改革にどう活かしていくのかということ。あわせて重要となるものは、外国からのインバウンドを含めた、そういうお金を落としてもらおう仕組みづくりっていうのがないと地域が潤わないですから、そういったことを戦略的に、もちろん簡単ではないと思いますけど、考えていただきたいと思います。あわせて、戦略に追加された県外進学者等のUターンの促進というのは、若い人達がどうしても一旦出て行くというのは避けられない部分あると思いますから、むしろ離職時の戻って来いというのをもっと大々的に、前面に押し出してもらったらいいと思います。ひとつの魅力としては、認知症予防を含めたフレイル対策というのがあるんですけども、鳥取大学医学部といった地域資源を活かして、元気なお年寄りに帰ってきてもらって、その方々にもお金を落としてもらおうという仕組みを循環的に繋げられたらと思います。先ほどの技術革新については、米子高専という財産がありますから、米子高専と地元企業はすでに連携されていると思いますけど、もっとスピード感をもって、地元企業のイノベーションというか生産性、効率のためにIoTは欠かせないと思いますから、もうちょっと推進していく必要があるのかなと。今のスピード感では全体的な流れの中では乗り遅れてしまうんじゃないかなという危機感があります。以上のような、誰に対してどういうまちの魅力を発信していくかということ、エリアを含めて、ストーリー性を持って発信していくということが重要なんだろうと思いますので、総花的なプロモーション活動でなく、ターゲットを明確にして対象者を特定して、その人たちの心に響くプロモーション活動をしていただけたらなと思います。

○古賀座長

確かに議論が出てなかったところが、このUターンに関しては学生ばかりではなくて、定年退職してから帰りたいっていう人も多くいらっしゃるんですけども、健康長寿のまちという形でこの米子市を情報発信していくことも非常に大事なだと思います。健康長寿のまちを演出することで、そういったUターンだけではなくて、Iターンとして、高齢者の受け入れについて市としてどういうふうにお考えでしょうか。

○齊下福祉保健部長

貴重なご意見ありがとうございます。古賀先生も来ていただいているところではございますけれども、いま米子市の方でも介護予防ですとかフレイル対策ということで、地元にも鳥取大学という立派な、貴重な資源がございますので、今まで個々の施策の中で色々展開をしておりましたけれども、是非市と大学と一緒に、高齢者の方が安心して住み慣れた、住み続けられる「健康長寿のまち」ということで、どんどんPRをしていこうということで、いま一緒に、これからどういうことができるかということ協議をさせていただいているところでございます。あと今の施策とか、体制ができれば、今度は外にどうやって知らせ、展開していくかということも大事だと思っておりますので、そこのところもまた大学の発信力と一緒にしまして、市の方も取り組んでいきたいと思っておりますのでございます。

○八幡総合政策課長

高齢者にやさしいまちづくりについては福祉保健部長が申し上げたとおりでございますが、今までの戦略の中で、どうしても対象が新卒者であったり、主に働く現役の方といたしますか、そういう方々が中心となっている。今まではそういう方々だったんですが、いま言われた視点というのが、ある意味、例えばそういう方々というのは職の心配がないわけです。年金とかあるわけですから、ある意味就職の心配をしなくてもいい。そういう方々が却って空き家解消にも繋がるでしょうし、そして今後非常に、重要になってくると考えているのが、地域の活動なり力ということで、地域で安心して生活を送るには、地域の中でいろんなことができる仕組みを作っていくといけません。いわゆる高齢者の方々を積極的に受け入れることによって、地域のあり方についても、安心して暮らせるまちづくりができるようにするというのも今後の課題で、次期戦略にその事についてはきちんと検証したうえで、ある程度載せていく必要があるのではないかと考えています。

○大江総合政策部長

高齢者の受け入れ、これは時代によって有効でして、8年ほど前に、ある公の場で、とにかくリタイヤされた65歳以上の方に米子に帰ってきてくださいというキャンペーンをやったらどうですかと言った時、その時は皆さんに鼻で笑われました。その時には、高齢者の方が増えるとにかく自治体負担、医療費がどんどん上がってくるのではないかとということで、介護保険なんかもスタートしてちょっとくらいのところ、なかなかシステムも機能していなかった。今そこからの社会情勢というのは非常に変わっておって、ある意味自由に使えるお金を一番持っておられるのは高齢者の方。その方がふるさとへの郷愁というところからこっちに帰ってこられると、その関係だけでもこちらに目が向くということのメリットが出てきます。まだこの自治体も「高齢者さんいらっしやい」というキャンペーンをあまり大々的にやってないと思いますけれども、これってもしかしてインパクトのある、先進性のあるものかなとちょっと頭の中で思っているところで、いい具合に仕組みづくりができれば、いま八幡次長が言いましたように、空き家対策、それからやはりどこかでは先祖の墓を守らないといけないという気持ちで年取ってくると出てくるところで、ただ、なかなかそこが現実性がないところを現実性を持たせる何かの施策ができれば、非常に有効なものになるかもしれないということは考えております。ただ市としてどう

するという方向性までは出ていないので、そのところを検討していかなければいけないと思っています。

○八幡総合政策課長

ちなみにですね、米子市のGDPの話を少しさせていただきますと、いわゆる医療サービス産業というのが、近年ものすごい勢いで、医療・介護は直にそれだけで産業だという考えをすれば、決して間違いではないという認識をしております。

○古賀座長

私も神奈川県鎌倉市の出身なんですけれども、鎌倉がリタイヤされた方に人気の街でして、高齢者の多い街なんです。ですが、やはりお金を持っていますので、たくさんお金を落としてくれるということで、そういった路線というのはあってもいいかなという風にも思いますし、そういう形のPRを行うことについても条件が揃っていると思います。医療の問題ですとか、福祉、あるいは生活環境としての買い物、お店ですね、そういったところが揃っている街だと思います。空き家の活用に向けても、社会的なインフラの整備というのは非常に重要になってくるであろうと思います。ですから高齢者が住むという前提で、もう一度まちづくりとしてインフラ整備というものを考えていただければというふうに思います。

○岡村委員

先ほど高齢者の受け入れのことについてございましたけれども、私も方向性としては必要なことであろうと思っています。特にそのアクティブシニアの方にこちらに帰って来ていただければ、先ほど言われた、使えるお金もある、経済効果が大きい、空き家対策にもなる、ということもございます。もう一つ言うと、アクティブシニアの方が来られると、先ほど話があった創業、シニアの創業、ということも考えられます。米子市の創業って、数字は定かじゃないですけども、人口1万人あたりに対しての創業率っていうのは山陰の中ではトップですね。全国平均で見ても平均値を米子市は叩き出している、創業がしやすい環境や文化があるのではないかと考えています。それを米子市の強みとすると、そういったものを前面に押し出していくことによって、アクティブシニアの方がこちらに帰られて、お金を使ってもらえるのもいいですけども、そのお金を使って創業してもらえると、新しい事業がひとつ起こってくるということもありますので、こういった目線も必要かなと今思いました。

それとテーマとしては大きいテーマですが、米子がいな総合戦略の総括と次期策定ということで議論が進んでおりますけれども、総括は来年度しっかりやるという事ですが、ここでプチ総括、中間報告をするとどうだったのかなというところをちょっとお伺いしてみたいというのがあります。あれだけの大量なボリュームのある施策を我々は戦略施策として見せていただいて、庁内の中ではそれに基づく担当部署があって、アクションプランがあって、スケジュール感があって、今まで走ってきておられて、見きれてきたんだろうかというところを、もう一度ここで確認させていただけたらと思います。

○八幡総合政策課長

それこそ総括につきましては、私どもというより、ここでしっかりとご意見を伺えたらと思っておりますが、客観的な数字を申し上げますと、やはりこの総合戦略一番の目標というのは、人口をいかに維持するか、これが一番の目標でございます。その面でいえば、先ほども少し申し上げましたけれども、国が推計した人口推計、それから私どもがこの戦略の中で推計した人口推計よりも若干上の段階にある。簡単に言えば、「思っていたよりも減ってない」ということです。その意味でいえば、戦略としては落第ではないというふうに考えています。様々な施策においては進捗状況を見ますと、それなりに事業というのは進捗しておりますし、特にインバウンド関係の数値については目標以上の成果が出ています。ただ、あえて厳しいことを言いますと、それぞれの施策が人口増加とか、観光客の増加とか、移住者の増加に、本当にどう結びついていたのかということについては、自虐的になるかもしれませんが、もう一度きちんと精査をしていかないといけないかなという風に担当の方では思っております。

○伊澤副市長

総括については、来年度、資料をご提示してご議論を頂きたいと思いますが、あえて私見を申し上げますと、私は非常に厳しいです。一言でいうと、うまくいっていない。いくつか理由があります。先ほど総合政策部の方から申し上げたんですが、米子のまちを考えるに絶対欠かせないのは、圏域人口の問題であります。今、米子のまちが見かけ上人口が減っていないのは、圏域から流れ出ている人口でダム機能を果たしているだけなんです。でも水源は必ず枯れます。枯れつつある。その時に米子のダムは水を与え続けることができるのか。残念ながらその基盤はできていない。このように考えています。多くの住人の皆さんが、行政区域関係なしにこのまちに学びに来ている。あるいは働きに来ている。これが実態であります。この実態に目を向けたときに、米子市という行政区域だけでものを考えるのは、ほぼほぼ意味をなさないと私は思っていますし、部下職員にもそういう視点を常に持つように言ってあります。そういった観点で、まずは人口問題が一番大きな問題でありますので、圏域の人口をいかに緩やかな減少に止めるか、あるいはどうにかほぼ横ばいくらい、どこかで均衡点を見つけたいと思うわけでありまして、その中で一番大きな課題の一つである、企業誘致、これがほぼ進んでいない。やはり製造業を中心としたベーシックな話であります。働く場所の確保というのは絶対に必要です。これが、当市では必ずしも準備できていない。それから、産業の高度化。先ほど多くの方からご発言いただきましたし、事務局からもお話ししましたが、やはり都会に出ている若者たちとのミスマッチの問題が必ずあります。県外の4年制大学に出たけれども、こちらに帰って何をやるんだという。県内で学んだ高専の学生さんもそうだと思いますが、一定の高度教育を受けたその先の夢として、どんな職に就きたいのか、その就きたい仕事がこの圏域にあるのかということ、非常に厳しい状態が続いている。とにかく産業政策というのはまだまだ道半ばというか、緒に就いたばかりというのが正しい評価じゃないかというふうに思っています。交流人口についても、インバウンドが非常に米子は賑わっていますが、作戦戦略に基づいたものかということ、残念ながらそうとは言い切れません。皆生温泉の資源をどれだけ活かしているのかとか、一生懸命やろうとしておりますが、米子城をどれだけ売り込んでいるのか、城下町観光あるいは駅前のナイトタイムエコノミーなどもっとしっかりしたアプローチをしていかななくてはならない。このようにたくさん課題がある中で、地方創生という全国の大きな掛け声のもとに、関係ありそうなことを全部集めて、総合戦略にし

てみて、そしてできるものは交付金事業としてやっていこうという、手当たり次第載せたという、実はこれが本音であります。したがって、次の総合戦略には、この第1期の反省をしっかりと活かしながら、あるいは現状をしっかりと踏まえながら、もっともっと重点化をしていこうし、まちづくりの方向性、あるいは先ほどから出ている「魅力」という言葉、非常に魅力的なんです、実は落とし穴があって「魅力」って一体何だろうと、もっと魅力を見える化と言いましょか、このまちの魅力って何だろうという事をもっと皆さんがあるいは我々が実感できるものとして見える化する必要があるのではないかと、このように私は思っています。なぜかという、「魅力あるまち」「暮らしやすいまち」って言うけどその実装実態が何なのかということは、実は人それぞれバラバラなんです。やはり外に向かって行こうとした時に、自分たちが本当に自信を持って売り込める「魅力」が何だろうということは、やっぱり追求すべきだと思っております。そのためには、繰り返しになりますが、今やっております4年間、来年度を含めた5年間というものを、そうは言ってもしっかり検証するなかで、今申し上げたようなこと、あるいは皆様方がお気づきのことをしっかりと次の戦略に活かしていくことが必要ではないかなと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

○古賀座長

「魅力」の見える化という非常に難しい意見を、実際どのようにやっていくというのは私達もよく理解できていないんですけれども、そういった形でまずは現状の理解をしっかりとしていって、その中で必要な課題を抽出し、次期計画に落としていくという作業が来年度、必要になるかと思えます。ついては、伊澤副市長さんがおっしゃったとおり、非常に厳しい状況であるということ意識しながら、次の計画に落としていく作業が必要になりますので、総合戦略の総括に向けて、各KPIに対する達成度だけではなくて、その大上段にある人口の問題と経済活性化に向けての問題に対して、どのような効果があったかということ进行分析していただきまして、残る課題は何か、新たに生み出された課題は何かということをもとに、来年度この会議で報告いただければと思います。できれば課題の中で、どのような形でそれを取り組んでいくかという細かい議論ができればと思いますので、こういう形で是非取り組ませていただければと思いますが、皆さん何かご意見ありますでしょうか。

○森田委員

私ども、国立の学校のもんですから、東京の中学生にこちらに来てもらうという形の取り組みを今始めようとしております。ご存知のように、松江高専と岡山県の津山高専が非常に近いものでして、その時、米子高専にどんな魅力があるかと考えたときに、一番最初は飛行機で70分ほどですから、乗っていれば来られるんですね。非常に近いという認識が、やっぱり東京の人は山陰なんかとても遠い、特に松江と出雲空港は近いかもしれないですけども、元々は米子空港を利用されていたというところがあって、米子空港を簡易なハブ空港みたいな形にして活用できるようになれば、おそらくこの山陰地域の人口流入というのは促進できるかなと思います。米子市は、山陰地区からどんどん人が流入してきて人口を維持しているという傾向があるんですが、外から人を呼んでくることに対して、非常に良い環境にあるんです。市街地までの距離がこれだけ近い空港とか、非常に少ない事例かなと思います。福岡空港とか、あそこまで近くはないで

すけれども、かなり近い。札幌なんかは千歳空港ですから、かなり都市部まで遠いところから行かないといけない。米子空港を是非活用していただきたいんですけども、かなり前に、スカイマークエアラインが入ったときは、地方空港都市を繋いで、これはおそらく企業誘致も進んで、米子高専の学生が地元企業に就職することが増えるなど期待したんですが、残念ながらああいうことになって、米子市としても検討されてるかと思えますけれども、路線の拡大ですね、この辺を増やしていただければおそらく企業誘致にもプラスになると思いますので、この辺をどう考えておられるか。境港にありますので、県にプッシュして、米子市と境港市が押していくような仕事なのかもしれませんが、その辺が進められているかというところと、それから、企業誘致をする時に松江市と鳥取市が企業誘致の競争をした時に、鳥取市が非常に強いです。それはどうしてかということ、やはり高速道路が近畿圏に非常に近いので、直接物流が繋がるということで、松江市がかなりお金の面で援助をしますという話をしても、鳥取市が勝つ場合が多い傾向があるように聞いています。物流の面では、やはり米子市は鳥取に比べたらかなり遠いし、高速道路はまだ完全に繋がっていない。要は物流が必要なものづくりの企業さんであれば、四国からの誘致が米子市実績があるんですが、物流の面と飛行機で近いという面は、モノを作ったりするクリエイティブな仕事の誘致が向いているんじゃないかと思うんですが、その点ですね、空港のこれからの活用と、それから物流の面、お考えがあれば、若しくは今後策定する上で検討いただければと思います。

○若林都市創造課長

まず空路についてでございますが、空路の充実に関しましては、鳥取県を中心に米子市も事務局機能を鳥取県の交通政策課と共に担っておりまして、米子空港利用促進懇話会という組織で、これは米子商工会議所さんも入っておられますし、官民挙げた組織で利用促進に取り組んでいるところでございます。ご指摘のとおり、路線の拡充というのは、我々としても非常に重要な問題だと認識しております。スカイマークの時にも継続していただきたいと、実際神戸線なんかは、私も当時担当者でございましたが、路線の改廃がある中で、約5割を超えて、もうちょっとで6割見えるんじゃないか、7割いけるんじゃないかというところまで行きそうだったんですが、会社側の都合で撤退ということになりました。現在の状況でいいますと、LCCに関しましては全日空系とJAL系に大まかに分かれています。全日空系の方が多くてですね、全日空が飛んでいる状況の中で、競合のLCCが入ることが難しいと。その中で引き続き、鳥取県を通じまして一緒になってスカイマークさん、今は全日空の系列に入っているわけですが、もう少し経営再建されて、もう少し自由度が出てくれば、引き続き路線の拡充をお願いしていきたいと思っております。現在、出雲空港さんの方がFDAという会社が飛んでまして、それが地方路線を繋いでいるということがあって、その会社に向かうということが現状できない中ですので、全日空さんとスカイマークさんとそれ以外も含めて、何かあれば継続してそういった路線の拡張はしていくと。それから、米子空港の場合はCIQ体制が他の空港よりございますので、これもまた鳥取県さんの方が前面に立って取り組んでいただいているわけですが、ソウル便とか香港便という海外線を拡充していくということで、その効果もあって駅周辺のホテルはかなり外国の方が泊まっていたというところもございます。ですので、活性化のために空路の充実というのは鳥取県と経済界、実は米子空港利用促進懇話会は鳥根県東部の行政と経済界にも入っていただい

てますので、ここと連携して一緒になって取り組んで参りたいと思います。それから米子道の4車線化も引き続き、物流の観点から進めていきたいと考えておりますし、それから新幹線ですね、これも都市間競争の中では一つの重要な要素だと思っておりますので、こちらも地域の経済団体と一緒に取り組んでいくことで、交通の要衝としての長所をさらに上げていきたいというふうに考えております。

○古賀座長

ご意見がつきないところだと思いますが、そろそろ議論の方はここまでさせていただきまして、次回の議論とさせていただければと思いますがよろしいでしょうか。

それでは「5 その他」の方に移りたいと思います。事務局の方からありますでしょうか。

事務局 資料4説明

○古賀座長

只今、今後のスケジュールについて事務局から連絡がありましたけれども、質問などありますでしょうか。

(なし)

その他、何か委員の皆様からありますでしょうか。

(なし)

それでは、これをもって閉会とさせていただきたいと思います。本日はありがとうございました。

12時00分閉会